第２号様式

会　議　議　事　録

１　会議名	第６回持続可能な長岡水道のあり方に関する懇話会
２　開催日時	令和７年５月７日（水曜日）午後２時～午後２時30分
３　開催場所	アオーレ長岡　東棟４階　大会議室
４　出席者名	（有識者）鯉江座長、長谷川副座長、大竹委員、田中委員、 並木委員、平賀委員 （事務局）渡邉副市長、植木局長ほか関係職員
５　欠席者名	西片委員
６　議題	１　開会 ２　懇話会の振り返り ３　意見書の手交 ４　意見書の概要説明 ５　副市長あいさつ ６　閉会
７　会議資料	別添のとおり
８　議事概要	別添のとおり

第６回持続可能な長岡水道のあり方に関する懇話会

議事概要

・はじめに、事務局から、これまでの懇話会で行ってきた議論の内容について総括があった。

・次に、鯉江座長から渡邉副市長に意見書の手交が行われた。

・続いて、鯉江座長から意見書の概要説明があり、続いて委員から懇話会を振り返っての意見や市に対する要望等について発言があった。

説明内容については以下のとおり

・当懇話会では、人口減少社会においても安全でおいしい水道水を安定的に供給できる水道事業経営のあり方について、およそ１年にわたって検討を重ねてきた。このたび、その結果を取りまとめ、意見書として提出する。市におかれては、当懇話会の意見を持続可能な水道事業の検討に活かしていただくことを期待している。

・水道は、生活や事業活動に欠かせない大切なライフラインである。老朽化が進む水道施設の更新・耐震化を着実に進め、将来にわたり安全な水を安定的に供給できるよう、全力を尽くしていただきたい。

・当懇話会では、令和８年度からの５年間でおよそ６０億円の収支不足が示されている。今後、高度経済成長期に拡張整備した水道施設が更新時期を迎える中、更新事業を支える財政基盤の強化は不可欠である。企業努力によるコスト削減に努めるとともに、適切な時期に水道料金の見直しを図るなど、水道事業の持続に必要な資金を確保し、維持するよう努めていただきたい。

・水道施設の老朽化や収支の見通し、対策の具体的な内容など、経営の現状や課題を分かりやすく、多様な手段で市民に発信し、水道事業に対する理解の促進に努めていただきたい。

意見・要望等は以下のとおり

【委員】

・多くの水道事業者が人口減少による料金収入の減少、事業費の増加、耐震化など共通の課題を抱えており、その中でも事業継続に向けて頑張っている。そういった意味では、当懇話会においては、水道局から現状分析と対策案が示されて、それに対して各委員が様々な観点から検討を行ったということで非常によくまとまっていると感じた。
今後は、中長期的な視点に立って経営戦略等の計画の見直しに繋げるとともに、不足する財源については、料金見直しなども含めてやっていく必要があるが、しっかりと市民に理

解していただくことが何より重要であると考える。計画と財政の見直しの考え方に加え、具体的な取組を示した上で、市民の意見も踏まえて持続可能な長岡の水道を築いていただきたい。

・懇話会に参加したことで水道が危機的な状況だということ、また、それに対して水道局が真剣に取り組んでいることを強く感じた。

長岡市民からすると、将来にわたり安全な水を安定的に供給していただくというのが、非常に大事なことなのではないかと思うので、そのことに主眼をおいて今後も取り組んでいただきたい。

かなり厳しい試算結果になっており、料金の見直しは仕方ない部分もあると思うが、市民はもちろんのこと、厳しい経営状況の中で会社経営している企業も多い。そのため、料金改定に際しては、市民のみならず企業にも理解していただけるよう、その必要性や効率化の取組について丁寧な説明をお願いしたい。

・水道は市民生活や企業の事業活動には欠かせないライフラインであり、人口減少による水道の需要減少の中で今後も水道事業を継続していくためには、できる限りのコスト削減と適切な水道料金の見直しが必要であると理解した。

ただ、現在の物価高騰と経済の先行きが見えない不安材料の中で、市民や企業は水道料金の値上げを望んでいないものと思われるため、水道が置かれている状況を分かりやすく説明し、利用者から理解が得られるよう努めていただきたい。

水道施設の改修工事や水道管の入替工事等にあたっては、地元企業への優先発注についてぜひとも検討いただきたい。

能登半島地震による断水の長期化や、他県では漏水による道路陥没等の事故が続いている。長岡市においても施設・管路の更新や強靭化が必要な時期であると考えており、この機会を捉えて事業を進められるよう強く望んでいる。

・今回の懇話会をとおして、水道局の職員など多くの人たちの努力があるからこそ、普段当たり前のように水道を使えるのだということに改めて気付かされた。

水道局のこれまでの取組を聞くと、値上げというのは致し方ないと感じる。同じように理解する市民もいると思うので、今後の情報発信にあたっては、分かりやすく、誠意を持って伝えていっていただきたい。

今まさに少子化を実感しており、変化が必要なタイミングだと感じる。これを機会に水道局の取組をもっと多くの市民に知ってもらえると良いと思う。

・当懇話会では、５回にわたって会議を重ね、じっくり腰を据えて議論を行うことができた。また、最初に施設見学を行うなど、委員に対して基本のところから状況を説明しようという姿勢が素晴らしいと感じた。今後は、市民に対しても同様に、水道の置かれている状況などを、何回も、しっかりと、丁寧に説明し、理解をいただきながら安全安心な水道事業の持続に取り組んでいただきたい。

併せて、水道局の取組に対するフォローの部分についても、継続して市民にお知らせして

いただきたい。

・改めて水について考える機会を与えていただけたのが良かった。市民にとって水は、「蛇口をひねれば出るのが当たり前」で、空気と同じようなものだと考えていると思う。しかし、懇話会の資料や施設見学を通じて、今、毎日水が使えるのは、水道事業に関わる方の不断の努力の結果であることが分かった。安全安心で安定した水の供給を続けていくために、その部分を重要視して経営を行うとともに、しっかりと市民に説明していけば理解を得られるのではないか。

・最後に、渡邉副市長からあいさつがあった。

あいさつの要旨は以下のとおり

・能登半島地震では水道が甚大な被害を受け、一部地域で長期の断水を余儀なくされた。耐震化の遅れが被害拡大の一因とされている。

・水道が止まった場合の社会のダメージは深刻。生活の安全と安心を守り、将来にわたって安定的な給水を行うため老朽化した水道施設の更新・強靭化は必須。

・一方で、施設の更新には膨大なエネルギーを要する。今後の水道施設の規模の見直し、更新・強靭化に要する資金やマンパワーの確保が課題。

・特に資金の確保については、水道局の自助努力はもちろん、料金収入の見直しも視野にいれて検討を進めてまいりたい。

・令和８年に、本市の水道は１００周年を迎える。大切な社会基盤である水道の安全・安心を守るため、いただいた御意見は今後の水道経営にしっかりと活かしてまいりたい。